

【6/19 特別ゼミ】参加の感想・コメント集

.....

<特別ゼミ概要>

2021年6月19日(土)13:30-16:30(3時間)

ZOOM開催(当日担当:中東理事)

講師:出川通理事

タイトル:「技術者の働き方の選択肢:

「知的自営業のすすめ」を書いた理由と思いを語り自由に議論する会」

(内容:3時間の内訳)

1時間:講演(PPT用いた、本の紹介など)

0.5時間:事前質問、コメントへの回答

1.5時間:自由討議と新たな気づきと質疑

予め質問疑問、コメントなどを共有化しておくことが望ましい(受付分を集約、事前公開)

「本」は出来るだけ、読んでおいていただく(一部でも)

「本」:『「知的自営業」のすすめ』技術者のための独立コンサル入門講座

出川通著 言視舎刊 2021.5.31

★難問、疑問、愚問、賢問、大歓迎!

.....

<主催者より>

◆講師役を引受けていただいた出川先生、御参加いただいた皆様

おかげさまで、総勢27名参加いただき、活発なディスカッションができました。

ありがとうございました。(司会担当・中東理事)

◆出川先生のお蔭で、素晴らしい「特別ゼミ」になりましたね。

体験を踏まえたお話には、説得力がありました。出川先生ありがとうございました。

正統派の「知的自営業」は、やはり高い見識がないとできないようにも思っていますがいかがでしょうか。

・日頃の研鑽があつてのことだと・・・。

やはり、腹落ちして、覚悟を持って飛び込む世界のような気がしています。

・しかしながら、企業勤務中に助走期間を持てば大丈夫ですよ、と背中を押してくれる著書だと、思っています。

当日は、出川節をお聞きしながら、私個人の事例を思い浮かべていました。

長話になってしまったことを反省していますが、

・出川節に触発されて、私の事例を踏まえながら、ご参考までに、助走期間の過ごし方について話をさせていただきました。

・正統派ではなく、企業内での亜流の、あるいは、派生的、エセ「知的自営業」(?)につ

いての事例と受け止めていただければ幸いです。

- ・なぜなら、独立しなかった。会社の柱となる新しい事業を創出する、という貢献大（自画自賛？）なコンサルタントをしていたにも関わらず全く無償（給料を貰っているのが当然だと思いますが・・・）で行っていた。

私が、社内で公言していたのは、どんな企業でも成功するためには三人の人間を必要とする。

- 夢を見る人
- 実務をする人
- そして何とも言えない嫌な奴

私は嫌な奴になる、と。（これは、夢を見る人や実務をする人を体験した後のことですが・・・）

少し解説させていただきますと、評論家ではなく社内コンサルタントです。そっちへ進むと落とし穴におっこちるよ、と言ってあげます。これは嫌われます。事業が大成功しても感謝されません。

- ・成果は実務をした人が独占します。コンサルティングのお蔭でとは、絶対と言ってもいいぐらい言いません。
- ・しかも、大体のケースは、俺がやった、と自慢します。

出川先生の、コンサルタントは裏方です、というご発言に相通ずるものがあります。

長々と書きましたが、どの人生を選ぶかは、本人次第です。

出川先生のご厚意で、どの方向に進むかを考える際のヒント満載の本を、無償で提供いただきました。

しかも、ご講演もしていただきました。質問があればどうぞ、とまで言っていただいております。

有難いことです。感謝！ 感謝！

テクノ未来塾 理事長 阿部 惇

<参加者の感想・コメント> (順不同・無記名に統一しました)

◆出川先生のご講演を聞いて、書籍の内容の背景やロジックのつながりを具体的に理解しました。

100年を生きるためには60-70歳を前提としている制度を利用したりライフスタイルを補う発想ではなく、個人の生き方（≡働き方、働き続けるスタイル）を根本的に変える必要がある、というメッセージ、身に染みしました。

また、その方法として、ストックに依存するのではなくキャッシュフローを回し続ける、そのための人的ネットワークのストックを積み上げ育て続ける、という点も腹落ちしました。

私自身、組織に所属できる期間は短くなっている一方で、次の一歩探しにはまだまだ躊躇がある、悩める世代の一人です。

これまでにかかわってきたコミュニティを大切に、もっと踏み込んで Give できることを最大限やってみることが課題、と思った次第です。

マネタイズの視点はしばらく横において、まずは自分が楽しめる生活スタイルや人や社会に貢献出来喜んでもらえることを、現実のものにしたいと思いました。

収入総額の議論がありました。過剰に持つ必要はないと思いますが、余裕をもって生活を楽しめるようなレベルは維持したいと思います。

我が家はまだまだ子供の学費が頭痛の種ですww。

◆6/19 特別ゼミに参加させていただきました。非常に良い企画でした。

出川先生、ありがとうございました。

現在は押し掛けで社内コンサルみたいなことをするようにしています。ここでいろいろ経験を積ませてもらおうという魂胆です。(それだけ本業が暇になってしまった事情があります。)

真剣に考えなければもう時間的な余裕があまりない状況ですが、幸いなことに子供の教育費もほとんど必要ないので、決断の時かな。

◆直近5年は本社で安全(業務の50%)も担当していました。グループ会社の監査の建前でしたが、実質は無料コンサルをしていました。各社さんに喜んでいただくのが楽しくて、結構向いているなと感じています。これからの業務を全うした後、65歳くらいからはコンサル的なことができると考えていたので、出川先生の特別ゼミは非常にタイムリーでした。

◆今回のゼミ、素晴らしい内容であったと強く感じました。

私自身、一つの区切りの時期をそろそろ迎えることとなり、今回のゼミは、何かが引っかかり、参加したのだと思います。オンラインで参加できることが、ハードルを大きく下げたのですが、参加しやすい環境を継続して整えていただいていることには、感謝しかありません。

◆そろそろ定年後のキャリアを考えないといけない年代になってきたので、とても参考になります。私の質問も取り上げてもらってありがとうございます。4問目は個人的すぎる質問でしたので、ちょっとゼミでやるのはどうかな? と思いましたが、出川先生の方も率直に回答されて、私的にはスッキリしました。

.....ご質問は、チャージングだと思いました。

他の参加者も知りたい、講師・参加者を惹きつける質問。

出川先生が、「自分にとっては、遊びではなく、楽しみです!」と仰っていたのが印象的でした。講師から率直な回答を引き出せてよかったですね。(事務局メール)

◆今の仕事はそれなりに面白いのですが、でもいつまでもこのままじゃないかもしれないし、その時になってからでは選択肢がなさすぎる気がして、そろそろ独り立ちしたほうが良いのでは? なんて思う今日この頃です。

◆出川先生のお話は Who、What、Why、How が明確でとても参考になりました。

ただ、目に見えないノウハウをどうやって価値に変換、昇華させるかというところが難しそうだと思います。

あと、知的自営業としてコンサルを目指す人のコンサルが出川先生の本だと思いますが、そのための実行プラットフォームの提供・コンサルという仕事も、意外とニーズはあって面白いかもしれないな、と感じました。(Twitter とか YouTube とかをうまく駆使して、コンサルの需要と供給をマッチさせる場づくり、クラウドワークスの知的自営業者版といいですか、そのようなものも面白そうだな、と)

モチベーション 3.0 の話が出ましたが、報酬第一＝モチベ 2.0 ということなので、出川さんの本の後半がお金のために知的自営業として独立しよう、という風に最初は感じていました。話を聞くにつれ、供給価値(社会貢献価値)＝収益という市場経済の原理に置き換えると、収益にこだわる必要がやはりあると改めて理解しました。(企業活動では当然のことですが、個人となるとつい頭が固くなってしまっていました)

◆私は、ほかの人がどう考えていて私の考えとはどう違うのかを思案しながら聞くのが楽しくて、ほとんど発言できなくてすみません。。

◆(前日に提出された質問)

世の中の現象が実数と虚数の数式で表現されるとするならば、コンサルタントの役目は虚数の領域をどう実数に作用させて実世界を改善することかなと思いました。(モノではなくコト)

虚数領域は目に見えない分、価値の説明が難しいと思いましたが、それをどのようにすればうまくできるかコツのようなものが有れば教えて欲しいです。本に書いてあるのかもしれませんが、虚領域をうまく現実変換して理解するのはなかなか難しく。。

◆(質問者の参加後のつぶやき)

出川先生の成功の秘訣はそこかなと思って聞いたのですが、ちょっと違ったみたいですね。

.....あの質問、私はすごく文学的な表現だなあ、と思いました。数学音痴ですから、言葉のイメージで。出川先生は、徹底的に理系脳で考えられたようですね。
講師が大喜びする質問、貢献度大！ でしたね。(事務局メール)

◆出川先生には、図書を送って頂いた上で講演をして頂き、さらに質疑応答の際にもご丁寧にお答え頂き、大変感謝しています。ありがとうございました。

50～75歳の第三ステージが技術者にとって本番で、そのステージを実りあるものにする選択肢として独立コンサルの実情を具体的にご説明いただき、少しイメージを掴むことができたように思います。

私は昨年秋に退職した後、再雇用で退職前と同じ職場に勤めています。これまでの経験を活かしてアドバイスをする立場で、社内コンサルに近いこともやっているとしました。第三ステージにかなり突入してしまっている年齢になりますが、社内コンサルテーションという言葉を意識して、仕事を見直してみようと思いました。

以下は、特に印象に残ったお話です。

先ずは、質疑応答から、

「自身の経験・知見が限定された狭い領域のものであるが、他の人に有益な情報になるのか？ 有益になる情報があったとしても、対象になる人は少数に限られるのでは？」

⇒「失敗の体験は有用で、失敗談は聞く人にとって有益な情報になる。→失敗すること。自分から探すのは効率が悪く大変。講演をすれば関心のある人の方から来てくれる。」

下記お話も、なるほどと腑落ちしました。

- ・コンサルテーションはクライアントと一緒にあって議論すること・・・だから人間がやる価値がある
- ・白黒つける（日本の理系にありがち）と、選択肢が減ってしまう。
灰色の世界、人間的な不合理さも並行的に捉える（文系の発想）と、選択肢が多くなる。
- ・客のビジネス領域については客の方がよく知っている。
自分が知見を持っている隙間があれば、そこに希少性がある。
- ・借金しない限り失敗にならない。
- ・成功するには本気になること。
- ・楽しむ。

以上です

◆先日は、出川先生の豊富なご経験に基づき、貴重なお話をお伺いする機会を頂きありがとうございました。

今回のお話は、出川先生が以前からお話されていたことの集大成ではないかと思いました。出川先生、阿部先生ともに最初に入社された組織で培ったご経験だけでなく、組織を卒業後も一生勉強の精神で新たな分野も含めて幅広く研鑽を積まれた結果、今に繋がっているのではないかと思いました。組織からの卒業、言い換えると会社の看板がなくなっても社会と繋がり続けるには、継続的な自己研鑽が必要ですね。

遅かれ早かれ、組織からいつかは卒業するので、それまでは属する組織を上手く使って自己研鑽を続けたいと思います。

◆楽観的に、できる理由を探す、のが本質に思えますが、それでも狭き門にも思えてしまっています。その辺を自信持って振り払えるような、切り口のヒントが欲しくもあります。今度先生には尋ねてみたいところです。

◆理系技術者、企業出身等同じバックグラウンドをもつ個人としてどのように組織を卒業し、自立していくのかを考える上で大変参考になりました。参加者はもうすぐ定年を迎える方が多く、共感するコメントを拝聴することができました。（関西圏の方が多そうですね。）さらに阿部先生のご経験もお伺いすることができ、大変参考になりました。

◆参加者の皆様は、15年以上も在籍されている方が多いのですね。現在勤めている企業を卒業し、いきなり自立するケース以外に将来の独立に向けてワンクッション（小規模だが、自分の特徴を活かせる企業に勤務）を置くのもいいかも知れませんね。今後も積極的に参加させていただきます。

◆小職も定年まで片手で数えられる年になりました。今後の人生設計の参考にさせていただこうと思います。（書籍申し込みの方より）

◆まさに丁度年代に差し掛かっておりますので、これで勉強させていただきたく思っております。本の贈呈、ありがとうございました。

◆資料をありがとうございました。

ざっと拝見して改めて気づいた？のは、未来塾のメンバーはそれぞれポテンシャルがあるということです。

また、その中でもちょっと踏み出してみようとか、自分のやっていることを他者を通して評価してもらって確認してみようとか、そういう動きをしていると様々な変化点でも対応できる、そういう人になっていくのかなということです。

自分自身がどうかというのは判りませんが、いわゆる他流試合はかなりやっているのも、もしかしたら、そうしたことが少しですが幅を拓げてきてくれたのかなと思います。

◆遅れてしまいましたが、小職の感想をお送りいたします。

・自分自身が本気になることがいかに大変かを実感しております。独立して事業を軌道に乗せる人は、会社に所属している時にすでに現実に対して日々自己を差別化しており、いざその時が来た時に、その差別化できる特徴を本気で信じて、現実に対して飛び込める人なんだと思います。

ではなぜ今自分が本気になることに対して躊躇しているか、というと差別化できる特徴を本気で信じ込めない自分がいるからだと感じています。

・そのような気持ちで先生の本を読ませていただきますと、本気で日々自己の差別化をせよ、と書いていらっしゃるのを感じます。

・ではこれから自分の強みをどこに見出すかですが、その根拠は、40代半ばから3年✕5回の社内・出向を重ねる異動を経験しつつ、会社や出向先の人たちとの関係性を良好に保ちながら、成果を出しながら腐らず前向きに仕事に取り組んだという実績、その時に行なった心のマネジメントスキルにある、と本気で信じることにしました。ということで、人を支援する仕事に着くことに決めました。（組織開発マネジメント）

やっと本気で信じる拠り所を決めることができました。ここを砦にして、これをピカピカに磨き上げて武器にして、これからの人生を面白おかしく生きてゆこうと思っております。

◆出川先生にまず感謝です。

本を進呈して頂いた上、特別ゼミで講義、質疑の機会を作成して頂き、ただ本を読むだけでは理解できない微妙な感触や想いを良く理解することができました。

また、質問状を直前に送付したにもかかわらず、全てお答え頂き、誠にありがとうございました。

一番の気づきになったことは「隙間と希少性に価値がある」です。自分の得意分野が人のやりたがらないこと、上手くやれないことにハマれば社内においても独立しても声が掛か

るようになる。——どこに自分の得意分野があるか、どこを自分の得意分野にするか良く考えていきたいと思います。

会社に属していてもどこからともなく声が掛かる人、必要とされる人にならないと思うように生きていけませんので、自営業という意識は常に持ち続けていきたいと思います。

それから、50歳以降の知的蓄積が本当に価値あるものにできるか、過去の資源はどんどん古びていくし、マネージャーをやっていると視野は広がるが専門性は深くないし、さてこれからどうしたものか悩みながら考えていきたいと思います。

貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

.....実感のこもった質問と視点の異なる講師の回答、

この組み合わせは素晴らしかったですね。参加者全員が、なるほど！と各自の状況に照らし合わせて考えることのできる、普遍性がありました。質問者ご本人が「一番の気付きになった」とおっしゃっているところがまたステキです。（事務局メール）

◆これからの3年に思うこと。

- ① 小職の後進の URA のメンバーを1年以内に確保して、ノウハウを伝承すること。
- ② 大学との契約があと3年で切れるのですが、大学の業務を抑えて、64歳地元メーカー専門のコンサル立ち上げの準備
- ③ そのためには、案外、地元の金融機関との付き合いが大事。
- ④ 金融機関から指名で、企業の開発やトラブル対応を要請されるのですが、これを短期にわかりやすく解決するとリピーターの金融機関が増えてきます。
- ⑤ いま、大阪の信用金庫2社と、関西の地銀2行からの依頼、解決を重点にしています。
- ⑥ 金融機関からの信頼が高まると、自立もしやすくなるのですが。一番の悩みは、後任を早く見つけることです。
- ⑦ URA という仕事は地味ですが、面白い。TLO は目立つ仕事で手ごたえもありますが、リスクもある。

まもなく、定年して今の仕事について2年になります。仕事は楽しいのですが、10年前のように同時に4,5件の仕事をこなす頭の回転スピードがなくなっているのが寂しいです。

◆社会も個人も思い（想定）通りになることは少ないのではないのでしょうか。

- ・ 社会貢献を考えながら、
- ・ 臨機応変というのが1番かもしれませんね。

信用金庫というのは目の付け所が良いですね。

- ・ 信用金庫は、地域密着が生きる道なので、大学との連携も相性がいいと思います。
- ・ ずいぶん前に、理事長に頼まれて、地域担当者20人弱のMOT教育をしたことを思い出しました。
- ・ お蔭で受講生の考え方がスッカリ変わった、と感謝されました。ということで受講生全員が講義終了後に昇格しました。

ご健闘を祈念しております。

阿部 惇